

 常盤工業株式会社



サステナビリティレポート2023



常盤工業株式会社 代表取締役社長
市川 浩透

代表メッセージ

「地球に優しい」「人に優しい」「社会に優しい」
常盤工業は3つの「優しい」をキーワードにサステナブルな未来を創造していきます

常盤工業は、戦後の復興期昭和26年に設立以来、建物やインフラ創りを通じて地域の発展に貢献してきました。明るい未来を信じて社員一同必死に努力をしてきましたが、少し立ち止まって自分たちの進むべき方向を考えなければいけないフェーズになってきたように思います。気候変動への懸念、資源の枯渇化、少子高齢化社会の到来、格差の広がりなど、我々を取り巻く課題がより深刻化し「なりふり構わずに頑張る」のみでは社会の課題を解決できない状況になってきました。地球が、人が、社会が、悲鳴を上げています。

時代の必然として「サステナブル（持続可能）」という言葉が脚光を浴びています。我々現役世代の責任として、次世代を担う子どもや若者が未来に希望を持てる「サステナブルな社会」にしていかなければならないと思います。そこに向けて、私たち常盤工業は「優しい」というキーワードを掲げました。

- 「地球に優しい」 事業活動でのCO2発生を抑制し、できる限り資源を再利用するインフラ創りに取り組むこと。
- 「人に優しい」 社員、お客様、取引先様などのステークホルダーの真の幸せを追求し、快適なビジネス空間や居住空間を創造すること。
- 「社会に優しい」 地域コミュニティを構成する一員として、地域社会の課題解決に取り組むこと。

「地球に優しい」「人に優しい」「社会に優しい」をキーワードに企業活動を推進することが、サステナブルな未来を創造していくことになると私たちは確信しております。

人と地球が共存できる社会を実現し、今よりも素晴らしい未来を次代に引き継いでいく…。これが「新しい建設会社」のあるべき姿だと思います。常盤工業は「新しい建設会社」を目指していきます。



社是

自利 利他

- ①自分を磨き、功德を自らが受け取ること
 - ②自分以外の他者の為に尽くし、他者を利すること
- この二つのことを実現していくという意味です。

ビジョン

地域に愛され 社員が誇れる 会社を目指す

「利他」の積み重ねにより、地域から愛され尊敬される存在になり、顧客が溢れるようになる。またそのことが「自利」につながり、従業員が各人の人生を懸けるにふさわしい職場環境が整備され、「当社の一員であることが誇りに思える」ようになる。そんな、魅力的でありかつ立派な会社を目指します。

トキワの情報発信と交流

トキワの事業や活動をステークホルダーの皆さまにお伝えしているツールをご紹介します。

WEB



コーポレートサイト



リクルートサイト



住宅サイト





イベント

ときはまスクエア®で実際に行うイベントや、オンラインで開催するものもあります。



※ときはまスクエア
トキワ本社+浜松磐田信用金庫野口支店・曳馬支店からなる敷地一帯の名称。

← 広く 情報の性質 深く →

紙媒体



会社案内



TOKI PORT
パンフレット



サステナビリティ
レポート(本誌)



RE;TA



ときtoわ
(住宅会報誌)

SNS



SNSやHPなど
こちらから見れます

このレポートについて

このレポートは、常盤工業株式会社の持続可能な社会実現に対する考え方を示し、またそれに基づき未来へ続く1年ごとの活動内容や結果を報告するものです。また、私たち自身で自らを検証し、社会から私たちを評価・指摘していただけるツールと捉えています。街づくりを担う建設会社として、ステークホルダーの皆さまとの真摯なコミュニケーションが事業活動や社会貢献活動の価値創造力を高める原動力との考えで編集を行います。

目次

p1	代表メッセージ	p7~8	地球に優しい
p2	企業理念	p9~10	人に優しい
p3	目次 / このレポートについて	p11~12	社会に優しい
p4	SDGs 行動計画 & 結果	p13	ステークホルダー評価
p5~6	年間ハイライト	p14	編集後記

対象期間

対象期間：2022年10月1日～2023年9月30日
(一部のデータは、上記の対象期間と異なります)

用語について

本レポートで使用している「ステークホルダー」「お客様」には、直接の利害関係に関わらず当社が関わった建築物や各種インフラのご利用者など影響を受けるすべての人々が含まれます。

2023年9月期 SDGs 行動計画 & 結果

トキワが取り組んでいるSDGs 行動計画、またその結果を3つの項目に分けてご紹介いたします。

01 地球に優しい



大目標

脱炭素、省エネルギー社会を実現して、温暖化を防止する。そのために①地球環境配慮型建築物の啓蒙と普及を行う。②事業上の使用エネルギー及びCO2排出量を削減する。また限りある資源を有効活用する建物再生事業を進展させる。

2023年9月期の計画

2023年9月期の計画	結果
新社屋の団体及び個人の見学受入れ	○
ZEB設計提案を1件以上、受注を1件以上	◎
社屋のCO2排出量を標準事務建物比100%削減	◎
環境経営目標12項目のうち、10項目について100%以上達成	○
モデル現場1ヵ所で、仮設事務所使用電力及び事業利用電力再エネ化。	×
CS再生事業部受注金額 7.9億	○
長期優良住宅提案50件、実績80%以上	◎

02 人に優しい



大目標

経営目的「全従業員の物心両面の幸福を実現する」ため、①身体、心、お金を含めた健康経営を推進する。また建設会社として、②人が快適に豊かに過ごせる施設やインフラの維持拡大に努めながら、建設業としてカバーできない③ソフト面の課題においても積極的な社会貢献活動を行う。

2023年9月期の計画

2023年9月期の計画	結果
従業員への健康情報発信やセミナー実施 各種制度・体制(社外相談、安衛委員会など)の維持発展	○
有給休暇取得率向上のためアニバーサリー有給休暇の奨励	○
在宅勤務規程を作成して実施する	○
女性技術職10名→12名	○
公益性の高い施設の新築及び改修工事の受注	○
チャリティーマラソンの支援、ホワイトリボンランの支援を継続	○

03 社会に優しい



大目標

地域コミュニティを構成する一員として社会と交流して、①積極的に社会貢献活動を行う。また社会基盤の構築を担う建設会社として、②我々の仕事が生み出していく価値をしっかりと伝えていくこと、そして③ステークホルダーの皆さまと共に持続可能で賑わいある街づくりを行っていく。

2023年9月期の計画

2023年9月期の計画	結果
新社屋を活用した各種イベント、セミナーなどの実施 地域コミュニティとの連携実施	○
教育機関の社屋見学を積極的に受け入れる	◎
SDGsに関する講座、ワークショップ、説明会の実施を5回以上行う	◎
地域への工事見学会を積極的に行う	◎
会社として積極的に社会貢献活動を行う	○
ボランティア休暇の取得推進 会社単位でのボランティア活動を年5回以上	△

年間ハイライト

2022年10月

2023年3月

2023年4月

2023年9月

自社の取り組み

10月

静岡Greenでんきを
浜松市建設業で初導入



11月

ハママツ
つながる文化祭



12月

RE;TA Vol.3発行



5月

ときはまフェス

6月

ときはま読書会スタート



7月

小学生向け社屋見学会
「オフィス探検でSDGsをみつけよう!」

外部交流・評価

10月

エコアクション21
感謝状



2月

静岡県地球温暖化
防止活動知事褒章受賞

3月

浜松市CSR活動 優秀賞
Star Prize制度
マイスター認定(2つ星)

4月

花のリレープロジェクト
参加

8月

まじゅうアート
採用



9月

パートナーシップ
ミーティング会場



12月

SDGs未来都市浜松
オープンミーティング登壇



3月

ホワイトリボンラン
参加、協力、
Instagram募金企画

7月

はまこらさんに学ぶ
社会貢献講座



8月

リッターズ全国大会出場
教育長表敬訪問

仕事

10月

令和4年度浜松市営住宅
中田島団地C12棟
外壁・屋上防水改修工事



2月

令和4年度社資交重(防)公共第1号
マンホールトイレ築造工事(第1工区)



3月

浜松市下水道工事
イメージ向上審査最優秀



5月

TOKI:SMA発売開始

6月

令和4年度 浜松市優良工事
優良工事2件



9月

シンズ工業(株)
工場新築工事(ZEB)

01 地球に優しい



大目標

脱炭素、省エネルギー社会を実現して、温暖化を防止する。そのために①地球環境配慮型建築物の啓蒙と普及を行う。②事業上の使用エネルギー及びCO2排出量を削減する。また限りある資源を有効活用する建物再生事業を進展させる。

ZEBの普及

常盤工業のZEB「ゼブ」(Net Zero Energy Building)は、省エネルギー&省CO2で地球環境を最大限に考えながらも人がイキイキと心地よく過ごせる建物を目指します。建築物本来の目的である居住の快適さと地球への優しさを両立した「心地いいZEB」をお客様へ提案し、受注がスタートしています。



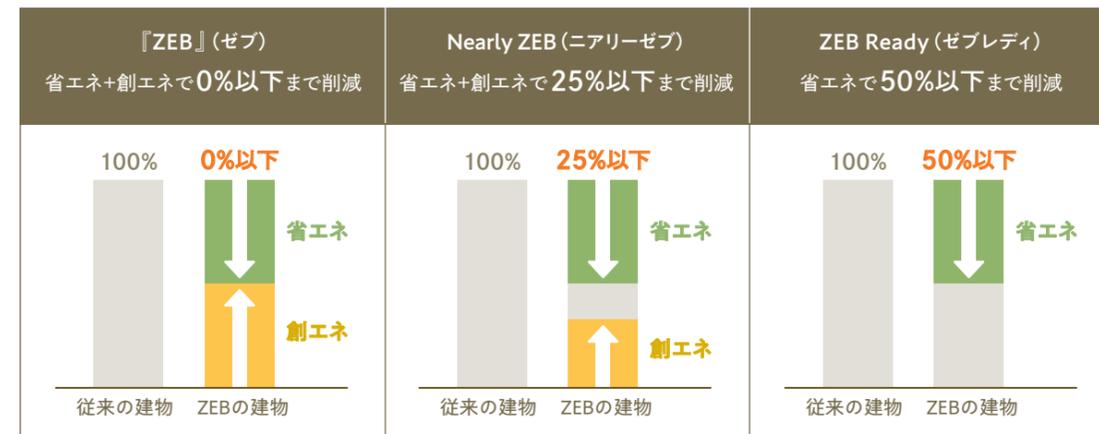
受注スタート

シンズ工業(株)工場新築
2023年9月竣工 ZEB Ready



ZEBとは？

Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称で、「ゼブ」と呼びます。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のことです。ZEBの実現・普及に向けた段階が定義されており、主な3段階を以下に図示します。



※グラフは建物に必要なエネルギー量を示す。

常盤工業社屋の実績

ZEB達成

当社の目指す環境配慮型建築物を体現し、実験棟やショールームの側面を持つ常盤工業社屋「ときポート」では、消費する一次エネルギーを正味103%削減してZEBを実現しています。



CO2排出量削減

社屋のZEB化実現による削減に加えて、2022年10月よりCO2フリー電気を購入することでCO2排出量削減を更に推し進めています。



※中部電力ミライズ株式会社 2021年度CO2排出係数(0.388kg-CO2/kWh)を元に算出。

静岡県地球温暖化防止活動知事褒賞

建築物としての社屋そのものと積極的な見学受入れが地球温暖化防止活動として、静岡県より評価を受けて県知事褒章を受けました。



社屋公開継続中

初年度に引き続き多数の見学者を受入れ社屋公開を継続しています。まず知ってもらうことでZEBなどの環境配慮型建築物の啓蒙と普及を目指します。



02 人に優しい



大目標

経営目的「全従業員の物心両面の幸福を実現する」ため、①身体、心、お金を含めた健康経営を推進する。また建設会社として、②人が快適に豊かに過ごせる施設やインフラの維持拡大に努めながら、建設業としてカバーできない③ソフト面の課題においても積極的な社会貢献活動を行う。

公益性の高い施設：マンホールトイレ設置

当社では災害時に避難所となる学校施設へのマンホールトイレの設置工事を浜松市より受注して多数の施工実績があります。

マンホールトイレとは？

災害時に断水すると通常お使いの水洗トイレは使えなくなります。そのような時にプールなどの水源を確保しておくことで、水洗トイレとして使用できるのがマンホールトイレです。上部構造物（便器、手押しポンプ、パネル建屋）をマンホールへ設置することで、マンホールから通じた下水本管へ汚物を流すことができます。また下水本管が破損している場合は貯蔵マンホールを備えているため、本管復旧まで貯蔵機能を使うことでトイレ利用が可能です。



説明会や説明動画公開 (YouTube)

災害時に役立つマンホールトイレですが、そのためには正しい理解と正しい使い方を広めることも大切です。当社では設置工事時に説明会を開き学校や近隣自治会向けにマンホールトイレの意義や設置方法をお伝えしています。また、上部構造物（便器、手押しポンプ、パネル建屋）の組立て設置方法をYouTube動画で公開しており、災害時の組立て作業の際に参考としてお使い頂けます。



組立て方はこちら

設置場所 (2024年2月現在)

浜松市ではマンホールトイレの設置場所が年々増加中です。

相生小学校・蒲小学校・佐藤小学校・佐鳴台小学校・新津小学校・積志小学校・浅間小学校・萩丘小学校・花川小学校・東小学校・三方原小学校・三ヶ日西小学校・南の星小学校・与進小学校・和地小学校・和田小学校・鹿玉中学校・開成中学校・笠井中学校・北浜中学校・湖東中学校・篠原中学校・中郡中学校・庄内学園・浜松中部学園 (小学校、中学校、小中一貫校の順で五十音順) (薄字は他社施工)

社員の幸せ

社員が心身ともに幸せでいると、能力をフルに発揮して仕事を行うことになり、それがお客様や仲間の価値へつながり、お客様や仲間へ役立っていることから充実感を得る。この幸せ循環の起点である「社員の幸せ」を実現するべく、様々な取り組みを行っています。

健康経営優良法人2023

常盤工業では社員が健康に働ける取り組み（スポーツクラブ利用促進、産業医による健康相談、社外相談窓口の設置、メンター制度の導入など）を多数行っています。

有給休暇取得率

64.0% から **67.4%** へUP!

プライベートタイムも充実させるべく有給休暇取得率向上へ努めています。



育児休業・産前産後休業

男性社員も女性社員も取得が広がっています

子育てに集中できる環境を後押ししています。男女一緒に子育てできるように男性社員の育休取得も推進中です。



レスキューボードベンチ

通常時はベンチ、傷病者発生時には担架になる「レスキューボードベンチ」を工事現場に設置しています。担架として利用する場合、ベンチ裏に付いているベルトで傷病者を固定し安全に運ぶことができます。レスキューボードベンチを使用した訓練も実施しています。



チャリティー・支援活動

建設会社としてインフラ整備というハード面での価値提供を行う一方で、本業では成しえないソフト面での社会貢献をチャリティー・支援活動を通じて行っております。

女子野球支援

女子中学生・小学生の軟式野球チーム「浜松リッターズ」の支援を行っております。代表を社長の市川が務め、一部の社員がスタッフを務めるなど、一丸となって活動を推進しています。地域スポーツの振興活動として教育機関との連携も始まっています。



全国大会
出場!

ホワイトリボンラン

妊産婦を中心とした女性の健康改善を目指したチャリティーランイベントへ参加と寄付を続けています。保育園・こども園を多数施工した当社としては、ハード面以外の活動を通して身近な女性の健康や子育て環境の改善へより貢献したいと考えています。



03 社会に優しい



大目標

地域コミュニティを構成する一員として社会と交流して、①積極的に社会貢献活動を行う。また社会基盤の構築を担う建設会社として、②我々の仕事が生み出していく価値をしっかりと伝えていくこと、そして③ステークホルダーの皆さまと共に持続可能で賑わいある街づくりを行っていく。

様々な地域交流イベントを開催

当社も地域コミュニティの一員として地域の発展や課題に取り組んでいくために、社屋を活用した地域交流や対話の機会を創り出しています。また、働く場としてのオフィスにそれ以外の新たな空間価値の実験場としてくことで建設会社として新たな価値提案を図っていきます。

ハマまつつながる文化祭

SDGsをテーマに、学生、企業、NPOなどの団体と連携しての文化祭を初開催しました。フェアトレードマーケット、トークイベント、カードゲームやクラフト体験などを通して楽しみながらSDGsを感じられるイベントとなりました。



ときはまフェス

昨年も大好評のフェスを継続開催。今回も老若男女たくさん笑顔が溢れていました。



マルシェやステージも

パートナーシップミーティング

浜松市市民協働センター(はまこら)をはじめ、様々なパートナーと連携したイベントも今後増やしていきます。



はまこらと共同開催

©2022 はまこら

ときはま読書会

小人数のイベントもスタート。平日夜に設定図書に対する意見や感想を話し合う読書会を開催しています。様々な視点から1冊の本を捉えることで、本をより広くより深く読み込めます。



機会の提供

当社の保有するスペースやリソースを利用して地域の皆さまへ様々な体験、学習、発表の機会を提供しています。

SDGs講座・講演

年間参加者 1,100人

SDGs for school認定エドューケーターの資格を持つ社員によるSDGs講座・講演の受講者が年間1,110人(2022.4月～2023.3月)を数え、多方面から好評を頂いております。



ギャラリー展示

常盤工業株式会社のオフィス「ときPORT」の中には地域のみなさまに無料で絵画などを飾っていただけるギャラリーがあります。地域のみなさまが気軽にアートに触れることができるようにするために開放しています。



工事見学会

工事現場でも地域交流や対話の機会を創り出しています。普段は見る事が出来ないインフラを見て頂くことで、生活を支える公共インフラの価値を少しでもお伝えできるようにしています。



マンホールの中を案内



実際の作業を見学

社屋校外学習受け入れ・SDGs探検

1年間に来場した学生539人(2022年4月～2023年3月)

ゼロエネルギーを体感できる建物として校外学習や時には修学旅行の訪問先として多数の受け入れをしています。夏休み期間には小学生向けに「SDGs探検」と称した見学会を開催して、自由研究課題に活かすお子さんもいて好評です。



CSR活動マイスター認定 ★★

今年度も当社の社会貢献活動が浜松市より評価を頂き、浜松市CSR活動表彰「Star Prize 制度」のマイスター認定として二つ星を受けました。マイスター認定二つ星以上は当社のみとなりますので、引き続きCSR活動のトップランナーとして牽引していきます。

ステークホルダー評価

名古屋外国語大学 世界共生学部
世界共生学科 教授

一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム
認定委員



宮川 公平 氏

研究分野：国際法、国際経済学、国際環境法など

フェアトレード・タウンの認定委員としてフェアトレードに関わるようになり、ここ数年、個人だけでなくさまざまな企業や団体からフェアトレードの問い合わせが増えているのを感じます。これは、社会的に持続可能な開発目標（SDGs）が広く行き渡りつつあることが背景の一つにあると考えられます。2023年に電通が発表した「SDGsに関する生活者調査」によると、SDGsの認知率（「内容まで含めて知っている」「内容はわからないが名前は聞いたことがある」の合計）が9割を超えたとのことです。持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年に国連で採択された「貧困、紛争、不平等・格差、気候変動、感染症による影響など、これまでになかった数多くの課題に直面しているとの危機感から、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべきものとして設定された世界共通の17の目標」のことです。フェアトレード（Fair Trade：公平貿易）は、発展途上国でつくられた農作物や製品を適正な価格で継続的に取引することによって、生産者の生活を支える貿易のあり方で、SDGsのほぼすべての項目に該当し、先進国と途上国が協働できることを理由に、世界各地で広がりを見せています。

日本でもフェアトレードに取り組む団体や企業、商品が増加しており、浜松市は街ぐるみでフェアトレードに取り組んでいる都市として、2017年に日本で4番目のフェアトレード・タウンとして認定されました。その後2020年、2023年と2回のフェアトレード・タウン更新手続が行われていますが、私は認定委員として2023年の更新調査訪問の際、常盤工業を訪問しました。浜松のフェアトレード推進団体であるはままつフェアトレードタウン・ネットワークさんから、SDGsとフェアトレード活動への貢献の例として常盤工業の紹介を受けました。調査を通して、環境配慮型の新社屋を「ときはまフェス」に代表される市民参加型のイベントに開放するなど地域との交流を積極的に行っているだけでなく、社屋そのものに加え、建築技術や地域社会との交流などがSDGsに適ったものであることが確認できました。また、フェアトレードに関しても静岡文化芸術大学の学生デザインを当レポートの表紙に採用し、同大学の学生たちが取り組む「ピナシヨコラ」の製品化の際にも社員がカンパして支援し、今後も継続的に地域市民を対象とするイベントに取り組む具体的な予定も提示され、地域との絆を深めようとしている姿勢を確認することができました。今年、ときはまフェスに実際に訪問しましたが、来場者が多いだけでなく年齢層も幅広く、出店者の方々も地元で根差しておられることも確認でき地元交流への熱気を感じることができました。

これまでの認定調査活動で、企業による様々な取り組みを調査する機会がありましたが、社是から積極的にSDGsの行動指針を導き出し、社の主要事業にとどまらず、地域との交流を通して社内外の課題に幅広く取り組んでいる事例はほとんどありませんでした。フェアトレードというと消費行動を通じた社会貢献という側面が強いため、商品の購入と消費にばかり注目が行くのですが、イベントの開催や人的交流を通じたフェアトレード啓発の事例は珍しく、さまざまな企業にフェアトレードを通じたSDGs目標達成の良い事例を示したのと言えます。こうした事例が、地域に浸透していきSDGsの活動が広がることを願ってやみません。今後も、SDGsの模範となりかつ地域に根差した活動を継続していかれることを期待しております。

編集後記

昨年に引き続き当社のサステイナブルな取り組みを報告する「サステイナビリティレポート」を発行することができました。もう少しスムーズに発行したいと思うのですが少数精鋭で編集を行っておりますので、ご容赦頂きたいと思っております。

さて、この度は、フェアトレード・タウンの認定委員でもあります宮川公平先生にコメントを頂きました。一見すると縁遠いように思う「フェアトレード」と「地方ゼネコン」です。しかし、不公平な取引という社会課題は、リテールに限られたものでなく社会構造全体に関わる包括的な問題であります。フェアトレードへの関わり方は活動主体に参画や支援をさせて頂く形でしたが、それだけに地域コミュニティと共に社会課題へ向き合うことの可能性を感じることができました。

そして、街づくりを担う建設業の仕事は多くの社会課題に直面しています。環境問題、温暖化対策、災害レジリエンス、建設労働者の不足などそれらは全国規模から地球規模の大きな課題でもあります。一方で当社は地方の中小企業に過ぎず、大きな社会課題へ対峙するには余力にも非力な存在であることも事実です。ではどのように向き合えばいいのか、その一つの方法が地域コミュニティと共に向き合うことではないかと考えています。SDGsのGoal.11「住み続けられるまちづくりを」は英語原文で「SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES」です。まさに、街というハードとコミュニティというソフトの両輪が持続可能な社会を築くことを表しています。当社の歴史は地域に支えられ、当社の現在は地域と共にあります。社会の大きな課題に向き合うからこそ、引き続き地域に視線を向けていきたいと思っております。そのために本レポートがステークホルダーの皆さまにご意見を頂けるきっかけとなることを期待しております。

常盤工業株式会社 経営企画部
マネージャー

高橋 脩夫



会社概要

会社名	常盤工業株式会社
創業	大正15年4月（1926年）
設立	昭和26年3月（1951年）
資本金	6,000万円
代表者	市川浩透
本社	〒430-0911 静岡県浜松市中央区新津町197番地
従業員数	110名 ※役員除く。
事業内容	総合建設業 ◆建築／鉄筋コンクリート、鉄骨、木造、その他 ◆土木／一般土木、舗装、浚渫、水道施設、鋼構造物

発行者 常盤工業株式会社
発行日 令和6年6月30日

お問い合わせ先（経営企画部）
TEL 053-461-9155

